

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

<p>PBS を活用した授業の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態に応じたカリキュラムマネジメント ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ○できるようになったことの自覚・共有につながる評価の工夫
--

学力向上検討委員会構成

<p>学力向上推進員</p> <p>森本恵美香</p>	<p>委員</p> <p>校長 尾崎 徳彦 教頭 尾崎 徳彦 主任 尾崎 徳彦 事務 牛田 藤彦 主 任 佐藤 昌彦 任 推 進 委 員 研 修 員 坂元 友啓 下 学 年 推 進 委 員 上 学 年 推 進 委 員</p>
-----------------------------	--

校長

尾崎 徳彦

【各校の取組状況の把握について】

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○課題に真面目に取り組むことができる。</p> <p>○粘り強く最後まで課題をやり遂げることができる。</p> <p>●個人、学年による学力差が見られる。</p> <p>●論点に沿って筋道を立てて話し合いを展開したり、既習事項を活用したりする力が課題がある。</p> <p>●語彙が豊かであるとは言えない。</p> <p>●話し合い活動における話形の定着が十分であるとは言えない。</p>	<p>1. 基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、それを様々な学習場面で活用することができる。</p> <p>2. 辞典や資料、様々な情報を適切に収集し語彙を増やすことができる。</p> <p>3. 読書に親しみ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>4. 話の中心を捉え、他者と比較しながら、話したり聞いたりすることができる。</p>	<p>・授業の中で、自力解決の時間を十分に確保し、個別指導を徹底する。</p> <p>・身に付けさせたい知識・技能を明確にするとともに、学習規律や学習方法を発達段階に応じて計画的に指導する。</p> <p>・単元の中で、身に付けた知識・技能を活用する場面を設定する。</p> <p>・児童一人一人のつまづきを捉え、学習状況の改善を図る。</p> <p>・ICTを効果的に活用し、児童の個別最適な学びにつなげる。</p>	<p>・ステップアップテストや学力テストの結果から、「書く」ことに課題があることがわかった。「書く」活動を授業に取り入れ、書く時間を確保する。</p>	<p>1-① ミニテストや授業中の確認問題の実施は、AIドリルの活用等で基礎基本の定着は、図れてきている。</p> <p>1-② 「チャレンジテスト」は、学年や児童に応じた出題や事前の取り組みにより、80点以上合格者が92%であった。</p> <p>1-③ ICTを活用した上での自力解決の有効性が見られた。(状況に応じて児童が使い分けられている)</p> <p>2. 辞書や新聞の切り抜き、音読等を活用し、語彙を増やす活動をした。</p> <p>3. 市立図書館との連携で、毎月本を借り、読書に親しんだ。</p> <p>4. 児安マトリクスを意識して授業に取り組んだ。</p> <p>・視写を取り入れ、書く時間を確保した。</p> <p>・字数制限等条件付での書く活動やテストを実施し、書く力の定着を図った。</p>	<p>1-② 「チャレンジテスト」の取り組みについて検討する。</p> <p>1-③ ICT のよりよい活用法を検討する。</p> <p>4. 児安マトリクスを活用し、活動目標を絞って徹底させる。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○小集団での話し合い活動においては、自分の考えを進んで発言することができる児童が多い。</p> <p>●自力解決の時に既習事項を活用することに課題がある。</p> <p>●筋道を立てて話し合いを展開する力が不十分である。</p>	<p>1. 自分の考えを適切な言葉で説明したり、豊かに表現したりすることができる。</p> <p>2. 協働的な学習に積極的に取り組むことで、自分の考えを広げたり深めたりできる。</p> <p>3. 多面的な見方や考え方ができ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p>	<p>・学習課題を明確にし、問題解決に向かって個別に学ぶ場面と協働的に学ぶ場面を授業にしっかり位置づける。</p> <p>・自分の考えや立場を筋道を立てて話したり書いたりすることができるよう、発達段階に応じた指導計画を立てる。(話し合い活動の時間の確保)</p>		<p>1. ペアグループ、自由等授業で様々な話し合い活動を取り入れた。</p> <p>2-① 話し合い活動のローテーションを決めて継続して実施。経験することで力をつけてきているが、筋道を立てて話し合うことが難しい。</p> <p>2-② 発達段階に応じた話し合い活動ができた。</p> <p>3. 考えや思いを明確に表現したり、伝わりやすい文章を書いたりすることは十分ではない。</p>	<p>1-① 発達段階に応じて、読みとる力を高めるための活動を行う。</p> <p>1-② 自力解決したことを説明する力や話し合いをする力を身につける取り組みをする。</p> <p>2, 3. 意見を広げる、深める、筋道を立てるための取り組みを考える。</p>

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○課題解決に向けて、主体的に取り組もうとする児童が多い。</p> <p>●宿題の提出率は高いが、自主学習の時間は、個人差が大きい。</p> <p>●家庭と連携した「おうち読書」の実施や家庭での読書習慣の定着が課題である。</p> <p>●学習に必要な物を忘れがちな児童がいる。</p>	<p>1. 目標をもって読書や学習に向かい、疑問点や興味関心のある事柄を進んで調べたり学習を深めたりできる。</p> <p>2. 学習過程において、学びを振り返り、学習の達成度や自分のよさ、今後の課題等を自覚することができる。</p> <p>3. 自分の「できる」を増やし、達成感を味わい、進んで学習に取り組むことができる。</p>	<p>・児童の主体的な学びが実現するよう、年間を見通した、教科等横断的な学習計画を立て実践する。</p> <p>・調べ学習や豊かな読書を推進するために、ICTや図書等、言語環境や学習環境を整備する。</p> <p>・「児安ブックリスト」を作成し、読書推進活動を実施する。</p> <p>・ポジティブな行動支援を年間を通して計画的に取り組む。</p> <p>・児童のできたことを可視化して賞賛する。</p>		<p>1-① 「児安ブックリスト」への取り組みは、学年により差はあるが、読書活動が活性化され、自主的に本を読もうとする積極的な姿が見られるようになった。</p> <p>1-② 自主勉強の取り組みには、個人差がある。</p> <p>2. ふり返りカードで、自分の課題を自覚できるよう工夫した。</p> <p>3. 週目標の反省の放送による賞賛により意欲が継続している。</p>	<p>1. 興味関心が持続する読書活動の工夫をする。</p> <p>3. ポジティブな行動支援(PBS)の取り組みを継続する。</p>

令和5年度 学力向上ロードマップ



